



0 手

象徴 を

注

15

建され、 また手印は阿弥陀定印 仏は承久三年 そのう 上品上生の定印 3 現高 なお姿と 0 で三 岡 大 がそびえる高岡大仏の 1 0 は 歴史が 余年 原型 を左手の上に置き ぎ見 0 伝 は寛元四 統 造 の結ぶ印 を Z 0 誇る高 お姿は 年(一二 高 岡 岡 工 世 銅 差し に珍 四 器 0 0



察往生

指を立

ると

三種



観光のお問い合わせ先

- ◆高岡市商業観光課 高岡市広小路7番50号
- ◆高岡駅観光案内所
- ◆雨晴駅観光案内所
- ●鳳徳山 大仏寺
- 社高岡市観光協会 高岡市下関町6-1
 - ☎ (0766) 20-1547
 - ☎ (0766) 23-6645
 - **☎** (0766) 44-1199 ☎ (0766) 44-0659

☎ (0766) 20-1301

高岡市大手町11番29号 **☎** (0766) 23-9156

高岡観光案内携帯サイト▶ 随時更新中です!



日本三大仏の始まり

奈良大仏は天平勝宝

四

(L

£.

岡

六

「ほっとホット高岡」http://www.ctiy.takaoka.toyama.jp/

H20.4/60,000 C

九九八八 二十三日 日 日 E 涅槃会 除夜鐘つき 茶会 お -夜法要 身 14 和 は ま 祈 願祭 な 0 VI 秋 (秋分の 分の日 0 前日) 日

高岡大仏尊像の説明

総 高 15m85cm 手 (長さ) 2m12cm 座 指 (まわり) 高 7m43cm 64cm 顔 2m27cm 御 円光背 (外径) 4m54cm 白 毫 15cm (内径) 3m64cm (直径) りまっ (直径) 9cm (中) 45cm 11 (厚さ) 螺髪数 648個 15cm 肉 髻(直径) 45cm (巾) 1m21cm (長さ) (長さ) 2m00cm 36cm 孔 (まわり) 30cm 32枚 蓮弁数 耳 32枚 (長さ) 1m21cm 逆蓮弁数 (長さ) 60cm 総重量 65トン





高

出



高岡市文化財 銅造阿弥陀如来坐像



山城を築き、 と伝えられています。その後三三〇年を経た天文弘治の頃、 金銅仏を腹中に納めた一丈六尺の木造大仏を造営したのが高岡大仏の始まり承久の乱をさけ、入道して越中に移り、二上山麓で護持してきた 丈 八寸の 高岡大仏の由来 この大仏を鎮守仏と崇めました。 入道して越中に移り、二上山麓で護持してきた 丈 八寸の およそ七八〇年前、 摂津国多田(兵庫県)に住む源義勝が 神保安芸守が守

されました。 人はこれを憂え、弟子の良歓を勧進職として延享二年(一七四五)九月再建 に移されました。その後一五○年を経て荒廃、坂下町極楽寺第十五世等誉上 慶長十四年(一六〇九)前田利長公が高岡に築城の折、 現在地(大手町)

寺第三十一世良禅上人と結び、さらに時の県知事の勧奨もあり、不燃の大仏 ました。信徒の世話頭、松木宗左衛門は大仏の復元を一生の悲願とし、極楽 した。光背の舟御光の頂上に三重の宝塔を据え、この中に火中出現 けて再建に奔走、天保十二年(一八四一)木造一丈六尺の坐像が建てられま 世譲誉上人が発願、田中源右衛門・津幡屋太兵衛・桶屋又治郎らが住職 火で類焼、腹中の金銅仏のみが焼失を免れました。その後、 に多くの有縁の篤志家により坐像の大修理が行われました。 を安置、光中の左右に十二光仏を並べ、更に全面に千体仏が配されました。 の鋳造を発願、荻布宗四郎らの協力により、 しかし、 以来、高岡町民に親しまれてきましたが、文政四年(一八二一)六月 翌年五月に開眼式が盛大に挙行されました。昭和五十六年(一九 明治三十三年(一九〇〇)六月の高岡大火で再び焼失してしまい 昭和七年(一九三二)十二月に 極楽寺第二十六 の金銅仏 ハー を助

での歌=鎌倉や御仏なれど釈迦牟尼は美男におはす夏木立かな=鎌倉大仏より一段と美男であると感嘆された由。これより先、鎌倉 昭和八年十一月歌人与謝野晶子が来高の折、 高岡大仏を拝し、

弥陀如来の恩徳を讃える無量寿経に説く十二光仏を配する予定でしたが、 み等の理由で阿弥陀仏の仏徳を一字で表現する A (キリーク)という梵字 が頂点に配されてい 昭和三十三年(一九五八)九月建載された円輪光背には、 ます。 重

> 方面の大佛に安す 掘田差衛

佛像 片陽に 胸あられ 梅肩 降りつもるとき 身はふるえ 生り飽きにる さまもなく 長さかな 通る人をは はるがなる天堂より この北国の け流し はだら雪 カラカンと日の題るときに 町なかの 法然タリー場、英 さるにても 身を寄せて 伏目にて 来たり座せる 挟きかにえに その日々の流れの 博き衣に 見て守る

堀 高岡市名誉市民芥川賞受賞作家高岡市伏木出身 りれもまた見ずられたるその人





(回廊仏画の一部) (大仏前公園内の時鐘 高岡市文化財)

われ、 います。また回廊の内壁に掛けてある十三枚の仏画は、昔末広町通りれ、周囲には、円光背に掛ける予定で鋳造された十二光仏が配されて の画家達が描いたものです。 にあった樹齢数百年の神木「七本杉」の古材を使って、当市にゆか 大仏台座下回廊 回廊の中央部に明治時代の木造大仏の尊顔が安置さ 面目を一新しました。 平成三年八月、 十三枚の仏画の修復が

屋町が前田利長公以来の厚い保護に報いるため願い出て、 (一八〇四) に完成し据えつけられました。 を知らせる必要から、高岡町奉行寺島蔵人が時鐘の鋳造を計画し、 江戸時代にはまだ時計が普及していなかったので、 文化元年 町民に時 金

筆による銘がきざまれています て自ら私財を投じ、文化三年に完成しました。 しかし間もなく割れ目が生じ、 元成しました。鐘面に儒学者皆川錫屋仁左衛門が高岡銅器の名に 洪をかけ



(坂下町極楽寺の資料による)